

場を視察。山本組合長が案内し、選別や包装の工程を紹介した。野上農水相は輸出の状況を尋ね、山本組合長は米国（ハワイ）、オーストラリア、ドバイ、シンガポール、香港、カナダに輸出している点を説明し、「東日本大震災の後は原発事故の影響で輸出がストップしたが、ここ3～4年で回復してきた」などと応じた。

J A帯広かわにしではナガイモの洗浄選別施設や保管・出荷施設を見学。「十勝川西長いも」は生産者の収益向上を目的に台湾やシンガポールなどアジア圏を中心に輸出。有塚組合長は、生産工程の開示やH A C C P 認証による品質保証のほか、将来的には宇宙食の開発を進める構想など説明し「(ナガイモ輸出は) 中国との競争状況にある。さらに品質向上を図っていく」と強調した。

野上農水相は「(輸出) 5 兆円を達成するためには生産から販売まで、あらゆる取り組みを進めなくてはならない」と述べた。

畜産クラスター事業で搾乳ロボットを導入したB & M (市川西町)、道畜産公社十勝工場の対米国向け牛肉輸出施設も訪れた。



枝豆の加工について説明を受ける野上農林水産大臣（右から2人目）。右端はJ A中札内村の山本組合長。（19日午前10時ごろ、同J Aの農産物加工処理施設で

プラチナ大賞 優秀賞 上士幌町・バイオガス活用 十勝農協連・土壌の凍結制御

2020年10月23日

【東京】地域課題の解決に取り組む自治体、企業を表彰する「第8回プラチナ大賞」の最終審査発表会が22日、都内で開かれた。上士幌町のバイオガスプラントなどを活用した持続可能なまちづくり、十勝農業協同組合連合会ら4団体による土壌凍結の深さを制御する手法開発・普及の取り組みが優秀賞に選ばれた。

プラチナ構想ネットワークなどの主催。自治体や企業から58件の応募があり、1次審査を通過した14件が最終審査に臨んだ。審査の結果、大賞2件、優秀賞12件が決まった。

上士幌町の竹中貢町長は「だれもが生涯活躍・環境と調和したビジネス展開」プロジェクトについて発表。プラントによるバイオマス発電は自給率100%を超え、基幹電源に位置付け、町全体のマイクログリッド（小規模電力網）構築を目指していると説明した。

I C Tを活用した遭難救助ロボットコンテストの開催、新公共交通システム「M a a S（マース）」による交通体系整備などの取り組みも紹介。「人やモノ、資源が循環する地域を目指し、挑戦は続いていく」と話した。

同プロジェクトは、まちづくり会社「生涯活躍のまちかみしほろ」、観光地域商社「k a r c h（カーチ）」と連携して実施。少子高齢化や人口流出による地域経済・社会の衰退を防ぐことを目的にしている。

十勝農協連は、農業・食品産業技術総合研究機構などと取り組んだプロジェクトの概要を発表した。十勝の畑は冬の凍結深が浅くなる傾向にあり、取り残したジャガイモが雑草化する「野良イモ」が課題になっている。畑を除雪して地面を露出させる「雪割り」、雪を押しつぶして熱の通りを良くする「雪踏み」を使い、土壌を最適な深さまで凍結させる制御手法を開発した。

十勝農協連はこの手法を普及し、十勝ではジャガイモ栽培面積の4分の1で導入されている。発表した同機構の勝田眞澄理事は「農家の負担が大幅に削減された。作

業の民間委託で新たな雇用を創出し、農業機械開発による経済効果は3億円以上と見込んでいる」と語った。



優秀賞に選ばれた上士幌町の取り組み。左から2人目が竹中町長



十勝農協連との取り組み成果を発表する勝田理事

<プラチナ大賞>

人口減少や高齢化、エネルギー問題などの課題を解決して目指す社会を「プラチナ社会」と定義。イノベーションによる新産業創出やアイデアあふれる方策で課題を解決している自治体、企業の取り組みを表彰し、普及を目指している。